

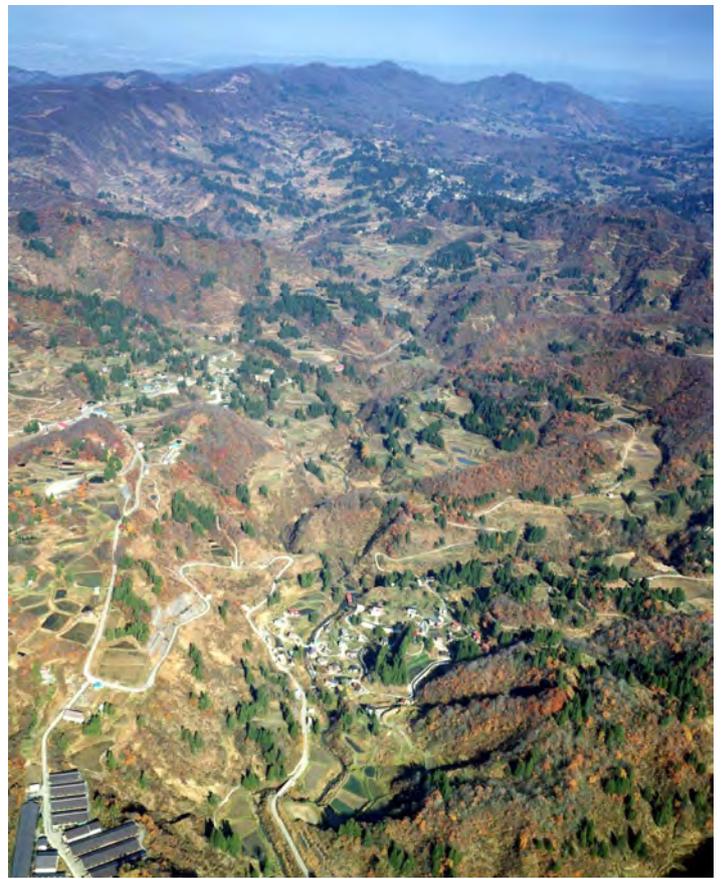
# 芋川はどんな川？

## ●芋川流域

芋川流域は信濃川の支川魚野川に流れ込む、羽のような形をした小溪流で、長岡市・魚沼市・小千谷市の3市にまたがって位置します。

本川河道の延長は7.3km、中流部までの勾配は比較的ゆるく、曲がった流路に特徴があります。

集落は山のひだに点在し、人々は行き来するため、冬などは特に危険であった峠越えを避けて、古くから手掘りのトンネルをつくってきたことが知られています。

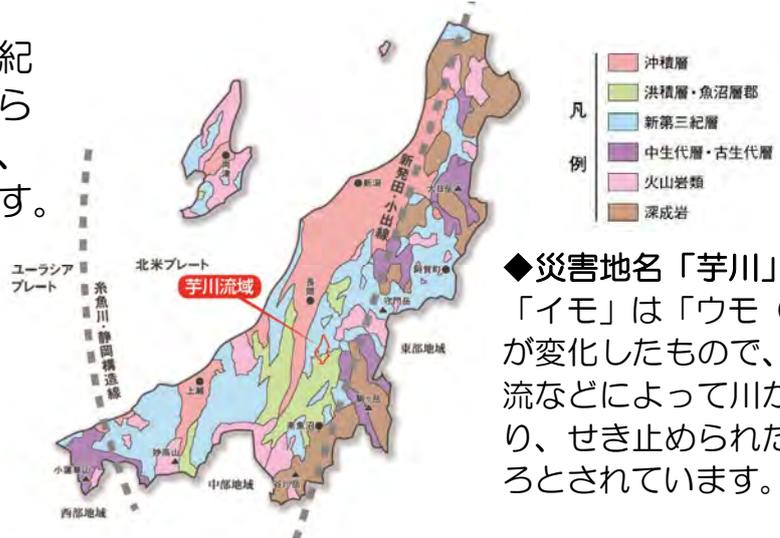


震災以前の空撮写真 (左) 東竹沢付近 (右) 榑木・池谷付近

## ●芋川流域周辺の地質

芋川流域と周辺の地質は新第三紀層のやわらかい砂岩・泥岩や、さらに新しい砂礫質の魚沼層からなり、地盤がもろくくずれやすい地域です。

また、地層が褶曲を受けて傾いており、日本有数の豪雪地でもあることから、地すべりが起きやすい地域です。



◆災害地名「芋川」  
「イモ」は「ウモ（埋）」が変化したもので、土石流などによって川が埋まり、せき止められたところとされています。



# -地盤を引き裂いた中越地震- くらしをまるごと奪う土砂災害

## ●中越地震による芋川流域の被災状況

地震の揺れで発生した激しい土砂移動によって、道路は寸断され、ライフラインも途絶しました。養鯉池や棚田等の主要産業施設も被災し、人々は暮らしの場を失い、ふるさとを離れての避難生活を余儀なくされました。



激しい土砂災害に見舞われた池谷付近



芋川流域と周辺の通行止め状況



人影の絶えた十二平集落に、救助を求める文字が残る。

## ◆芋川流域の土砂災害

中越地震により芋川流域では75ヶ所の地すべりと1,400ヶ所を超えるがけ崩れが発生しました。また、崩れた土砂が川をせき止める河道閉塞（土砂ダム）が大小あわせて55ヶ所が発生し、5ヶ所は大きなものでした。



中越地震による芋川流域の土砂災害発生位置図



大きな土砂ダムが生じたうちの1ヶ所であった、櫛木付近



# -地盤を引き裂いた中越地震- 川をふさぐ地すべり

## ●問題となった2ヶ所の地すべり

芋川左岸側の2ヶ所では、長さ約 350m、土砂量にして 100 万 m<sup>3</sup> 規模の地すべりが発生して芋川の河道をふさぎました。地すべりの上流側では川の水位が上昇し、下流にとっても大きな脅威となりました。

川をふさいだ2ヶ所の地すべりの規模

	東竹沢地区	寺野地区
長さ	350m	360m
幅	295m	230m
深さ	30m	25m
土砂量	130万m <sup>3</sup>	100万m <sup>3</sup>

## ●東竹沢地区



地すべり上部には高さ約 25m、延長約 100m のかけがえがけ、地すべりで押し出された土砂は川を乗り越えて旧東竹沢小学校校舎の前の谷の壁で圧縮されて盛り上がりました。地すべりの移動量は上部では約 70m であったことがわかりました。

## ●寺野地区

寺野地区では、地すべり土塊は約 50m 移動して、右岸側の谷の壁に押しつけられるようにして停止しました。

